

令和6年度学校評価シート

学校名：和歌山県立笠田高等学校

校長名：野川 景子

目指す学校像

- 生徒にとって、一人一人が大切にされ、安全・安心に学ぶことができる学校
- 教職員にとって、創意工夫が活かされ、働きがいのある学校
- 保護者や地域にとって、ともに頑張ろうと思える学校

育てたい生徒像

- 心身ともに健康で、目標に向かって粘り強く挑戦できる生徒
- 幅広い知識・技能を身につけ、自ら考え、他者と協働できる生徒
- 地域に愛着を持ち、主体的に地域の課題解決に取り組める生徒

学校評価の公表方法

- 本校ホームページに掲載する。
- 学校運営協議会に提出する。

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（令和7年3月3日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	主体的・協働的に学ぶ態度の育成と進路実現	C	・「分かる授業」「できる授業」の実践【教育相談、ICT教育の視点の導入】 ・スタディサプリ等ICT教材・学校設定科目ステップアップの効果的な活用【学習習慣の確立】 ・キャリア教育・職業教育の推進【社会人としての資質・能力の育成】	ICT活用、個別最適な学習・協働的な学習等指導方法や形態を工夫できたか。【学校評価、授業評価、公開授業等の実施回数】 ICT等を活用し、家庭等で計画的・主体的に学習する課題の設定ができたか。【授業評価・学校評価】 多様な入試制度の活用、応募前職場見学・各種ガイダンス、高大連携事業等の実施【大学進学状況・就職内定率】	B C B	全員が公開授業を実施し、ICT活用、ペア・グループ学習、プレゼンテーション等、主体的・協働的な学びの実現に向けて授業改善に取り組んだ。 ICTを活用した課題の設定等、家庭学習の定着に取り組んでいるが、十分ではない。「ステップアップ」では学び合う仲間づくりが進んでいる。 進路LHRやガイダンス、高大連携事業等の実施が生徒の主体的で多様な進路選択及び進路実現につながっている。	・「主体的・協働的な学び」教科や学科を超えた公開授業及び参観等を実施し、生徒の主体的に学ぶ力を育成できるよう授業改善に取り組む。 ・「探究活動の充実」教科等横断的な学習やICT活用により「総合的な探究の時間」「課題研究」を充実させる。 ・「学習習慣の確立」家庭と連携しながら、授業と家庭学習を接続する課題の出し方や評価方法を工夫する。
2	個々の教育的ニーズに対応した生徒支援・生徒指導の充実	B	・個々の生徒の適切なアセスメントと情報共有・共通理解 ・面談、アンケート等の有効活用 ・家庭や関係機関との円滑な連携	特別支援校内委員会を中心にした情報共有やアセスメントが迅速・的確であったか。【アセスメントシート・つなぎ愛シート作成】 面談等が効果的に実施できたか。【問題行動・不登校・休学・転学・退学者数】 組織的・継続的に生徒及び家庭の支援ができたか。【ケース会議、学年会議等の回数】	B A A	生徒の多様な学習ニーズについて、組織的・継続的に対応できた。更なる充実に向けて遠隔授業の実施に係る協議を継続している。 1学期及び2学期に面談週間を実施し、生徒と向き合う時間を大切にし、転・退学者数が減少した。 保護者及び関係各所と良好な関係を構築し、迅速・適切な生徒支援・生徒指導ができている。	・「多様な学習ニーズへの対応」特別支援校内委員会を中心に保護者及び関係機関等と連携し、適切なアセスメントを行い、ICT等を活用した学習保障を行う。 ・「組織的で継続的な生徒支援及び指導」学年会やケース会議を開催し、生徒の実態把握に基づいた目標設定を行い、「身だしなみweek」等、組織的・継続的な取組を行う。
3	安全・安心な学校づくり	C	・安全・安心な教育環境の整備 ・部活動、学校行事、特別活動の充実 ・防災・減災教育の推進	いじめ・不登校・問題行動等への対応が適切であったか。【学校評価、各ケース数】 目標に向かって生徒は主体的・協働的に活動できたか。【学校評価、各活動数】 避難訓練・防災スクール等が効果的に実施できたか。【学校評価】	B A A	適切な生徒支援ができているが、不登校生徒の学習保障については検討中である。 主体的・協働的な活動を通して、生徒の自己有用感・自己効力感を醸成することができた。 関係機関との連携による避難訓練・防災スクールが実施でき、生徒の防災・減災意識が高まった。	・「部活動の充実」中学校・地域スポーツクラブ・近隣高校等との連携や地域活動に参画する。 ・「防災・減災教育における地域連携」地域住民や関係機関等との連携・協働による防災スクールや避難訓練の計画・実施、「総合的な探究の時間」での生徒主体の取組。
4	地域との連携・協働	B	・地域住民・小学校・中学校・事業所等との連携の推進 ・自己有用感・自己肯定感の醸成 ・学校運営協議会の効果的な活用	地域との連携・協働の場が創出できたか。【教育活動の状況・学校評価】 部活動、学校行事、ボランティア活動等が充実できたか。【各種アンケート】 学校や地域の課題解決に向けて効果的に活用できたか。【学校評価】	A A A	教育活動全般において地域との連携・協働が進み、生徒の成長に繋がっている。 部活動・ボランティア活動・生徒会活動等が充実し、生徒の自己実現が図れた。 学校と地域をつなぐコーディネート機能が充実し、地域に根差した教育活動が展開できている。	・「地域とともにある学校づくり」教育活動全般を通じて、地域と連携・協働した活動の精選及び充実を図る。 ・「中学校との連携の推進」商業科による「出前簿記講座」の計画・実施 ・「総合的な探究の時間」「LHR」等における地域連携の場を創出する。

学校関係者評価（1月～2月実施）

【生徒】おおむね高い評価が得られており、学校生活の満足度が高い。

(1)学校生活について

- ・大多数の生徒が自校に愛着と誇りを持っている。
- ・学校行事や生徒会活動・ボランティア等への満足度が高い。
- ・生徒にとって相談しやすい関係づくりができている。
- ・校内の環境美化や生活規律についての課題意識が高まっている。

(2)学習について

- ・生徒の学習ニーズが多様化している。生徒理解・生徒支援と並行して、分かりやすく学びやすい授業づくりを推進したい。

【保護者】おおむね高い評価をいただいている。

(1)学校生活について

- ・文化祭・体育祭・各種説明会等、来校いただく機会が増え、教育活動の理解につながっているが、十分とは言えない。

(2)生徒支援・生徒指導について

- ・基本的生活習慣や規範意識についての評価が高まった。引き続き、家庭と連携しながら取り組んでいきたい。

【教職員】ほぼ全ての項目において、高い評価が得られている。

(1)教育目標、重点目標

- ・本校の現状と課題の認識、魅力と特色ある学校づくりについて、教職員の共通理解のもと、学校運営ができている。

(2)教職員の姿勢・意識

- ・自覚と意欲を持って業務を遂行することができている。
- ・生徒指導・進路指導については教職員の意識に幅がある。
- ・多忙化の解消に取り組んでいるが十分ではない。

【地域住民等】近隣にお住まいの方々に書面によるアンケートを実施した。

(1)生徒について

- ・通学の安全や学校生活を温かく見守っていただいている。
- ・挨拶や身だしなみについての課題をご指摘いただいている。

(2)学校運営について

- ・SNSやマンスリータイムスを通じて教育活動を発信しているが、「わからない」との回答が多い。学校開放週間の周知を工夫したい。
- ・生徒会活動・部活動・特色ある取組等について評価をいただいている。

(3)本校への思いや期待

- ・「ドローンの活用等、地域の防災・減災に係る連携を期待する。」
- ・「多様性の時代。一人一人の個性や特性を大切にした学校運営を評価している。引き続き教育活動の充実を応援している。」

